

開講科目名 / Course	くらし・文化 - 地域の芸術文化振興 -
時間割コード / Course Code	1221110001
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	袴田 麻祐子 / HAKAMATA MAYUKO (教養教育開発実践センター /)、福田 裕美 / FUKUDA HIROMI (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	青森と関わる芸術に関する見識を深めること 芸術に関する知識を活用して、青森の芸術と地域社会の多面的な関わりについて理解すること
授業の概要 / Summary of the class	制度としての芸術、地域の文化格差、文化権などの観点から、世界・全国と青森・弘前の現状を理解する。 地域の芸能や伝統文化の振興政策について理解する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	4月15日 (金) 17:40 ~ オリエンテーション (朝山、出) (20分程度、場所はTeamsを通じて連絡) 【第1日】7月上旬の金曜日 18:00頃 ~ (学部教員ほか。日時は目安。履修者の都合によって変更の可能性あり) 第1回 弘前における現代美術のための文化施設とその意義 「弘前れんが倉庫美術館」にて実施。開催中の展覧会および施設の内見を含む。要観覧料 欠席、遅刻、欠欠などの取り扱いについては、Teams のスレッドをご参照下さい。 【第2日】8月6日 (福田) 12:40開始、面接授業 第2回 「地域の伝統芸能」とはなにか ~ アプローチの変遷と現在 ~ 第3回 地域の伝統芸能を見てみよう 第4回 地域の伝統芸能が抱える課題 ~ グループディスカッション 【第3日】8月7日 (福田) 10:20開始、面接授業 第5回 地域の伝統芸能をめぐる法制度と取り組み / 「地域の伝統芸能」×「アートマネジメント」の視点 第6回 「地域の伝統芸能」×「アートマネジメント」の視点 第7回 企画をたててみよう ~ グループワーク ~ 第8回 企画の発表とまとめ 【第4日】9月8日 (袴田) 10:20開始、面接授業 第9回 地域にとって芸術文化とは 芸術文化と「公益」 第10回 国の政策における文化概念 文化庁の成り立ちと扱う範囲 第11回 国の政策における文化概念 文化芸術の「本質面」と「効用面」 第12回 公的助成の普及状況 【第5日】9月9日 (袴田) 10:20開始、面接授業 第13回 データからみる地域の芸術文化活動 第14回 文化イベントをめぐる力学 第15回 文化芸術の地域間格差

成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	前半（福田）： ・講義内の課題 30% ・期末課題 20% 後半（袴田）： ・講義内の課題 30% ・期末課題 20%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	・講義期間中は各日とも、講義内容をよく振り返り、補足の情報収集などして理解を深めること。 また、講義内課題に真摯に取り組み、十分な準備をして次の授業に臨むこと。 (福田先生より) ・北海道・北東北の「地域の伝統芸能」（民俗芸能、伝統的な行事・祭）について、どのようなものがあるか予め調べておくこと。 ・地域の伝統芸能をめぐる昨今の動きについて、アンテナをはっておくこと。 (袴田先生より) ・講義内課題で使用するため、文化イベント（展覧会、公演等）のチラシ（またはパンフレット、フライヤー）を各自2～3枚収集し持参すること。 ・期末課題として、講義内容を踏まえた文化的なイベント（展覧会、公演等）の体験レポートを課す予定。（講義以前に体験した文化的なイベントを対象としても構わないが、直近半年以内のものとする。その場合、体験したイベントのチラシ、パンフレット、Webで情報を得た場合はイベント名・作家や出演者・期日・主催者等の情報がわかる画面のスクリーンショット等を講義終了まで保管しておくこと）。 =>イベントの中止が相次いでおりますが、開催の計画と中止・延期の様相を含めて情報収集して下さい。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特になし
参考文献 / bibliography	我が国の文化政策（文化庁 年次報告書） https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenji_hokokusho/r01_bunka_seisaku/pdf/r1421859_00.pdf このほか、講義内で適宜指示します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	アートワールドひろさきキュアプログラム（履修照明プログラム）必修科目
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	電子メール、Teamsチャットを通じて随時可。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	窓口教員：朝山奈津子（教育学部） asayaman@hirosaki-u.ac.jp ；出佳奈子（教育学部） idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	A04: 地理学, 文化人類学, 民俗学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義、演習
科目ナンバー / The subject number	LA-2-1404-A01

メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	実務経験のある教員による授業科目：（福田、袴田）これまでに、各自治体や日本芸術文化振興会などの調査委員会や研究組織での調査・研究経験をもち、全国的・全世界的視点から青森・弘前の地域の実情を考察する。

開講科目名 / Course	思想 - 美学入門 -
時間割コード / Course Code	1222110004
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	森 功次 / MORI NORIHIDE
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	講義科目
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	森 功次 / MORI NORIHIDE (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	思想, 宗教, 哲学, 歴史, 倫理学あるいはこれらの学問の近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて, 既成の前提をその根拠にさかのぼって問い返す批判的思考を体得すること 美学, 芸術哲学およびその近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて, 日常社会への理解を深めること 身の回りの文化的問題について議論できる力をつけること
授業の概要 / Summary of the class	現代英語圏の美学 (いわゆる分析美学) の基礎的な議論、概念について学習し, 理解を深める。 美学の視点を用いて, 身近な文化状況のありかたや現代の社会問題について考察する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1回 イントロダクション 第2回 芸術とは何か1 近代美術システムの誕生 (再現説、表現説、形式主義、美的機能説) 第3回 芸術とは何か2 20世紀の定義論 (懐疑主義 (ワイツ) と制度説 (ダンター、ディッキー)) 第4回 芸術とは何か3 20世紀の定義論 (歴史的機能説まで (レヴィンソン、ステッカー)) 第5回 芸術とは何か4 21世紀の定義論 (束説 (ゴート)、責任転嫁説 (ロベス)) 第6回 芸術批評の哲学1 趣味の標準と批評における失敗 (ヒューム) 第7回 芸術批評の哲学2 理想的観賞者をめぐるその後の論争 第8回 芸術批評の哲学3 批評の種類と目的、批評を支えるいくつかの作業 (キャロル) 第9回 芸術批評の哲学4 芸術のカテゴリー (ウォルトン) 第10回 美的なもの1 美的判断の諸相 (カント) 第11回 美的なもの2 美的価値は推論できるか (シプリー) 第12回 美と道徳2 美的価値を伝えることはできるか、美的証言をめぐる論争 第13回 フェミニスト美学1 なぜ偉大な芸術家は存在しなかったのか (ノックリン) 第14回 フェミニスト美学2 ヌードの悪をめぐる論争と表現規制の論理 第15回 フェミニスト美学3 イエローフィーバーは悪いことなのか
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	平常評価 (各日の最後に提出するリアクションペーパー、および質疑応答への参加。評価全体の50%) 期末レポート (授業内で紹介した議論を批判的に検討する文章を書いてもらいます。同50%) 上記を合算して成績評価を行います。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	予習: 必須ではないが、やる気のある学生はリーディングリストの文献を読み、当該トピックについて理解を深めておくこと。 復習: リーディングリストおよび授業内で紹介した文献を参考に、授業内で取り上げた概念について理解を深めるとともに、授業内で紹介した議論を用いて身近な文化的問題について考察すること。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	購入必須の書籍はなし。授業中にプリントを配布します。

参考文献 / bibliography	ロバート・ステッカー『分析美学入門』（森功次訳、勁草書房、2013） 購入の必要はありません。 分析美学の邦語参考文献リーディングリストを公開しています。やる気のある学生はこちらを参考にしてください。 http://morinorihide.hatenablog.com/entry/20181218/p1
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	美学の初学者に向けた内容ですので、受講にあたっては特段の予備知識は必要としませんが、やる気のある学生は公開しているリーディングリストを参考に、関連文献を読み進めていって下さい。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	質問は基本的に授業内にしてほしいです（質問によって説明の悪かった点が改善されますし、話題を掘り下げることできますので）が、授業中に聞けなかったことはリアクションペーパー、および授業の前後に口頭、メールにて受け付けます。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	Eメールアドレス：morinorihide[at]hotmail.com [at]を@に置き換えてください。
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想，芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	該当なし
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	芸術 - モダンアート -
時間割コード / Course Code	1221100224
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
授業の概要 / Summary of the class	18世紀～20世紀前半にかけての近代美術（モダンアート）の歴史的展開を概観します。たとえば、モネやゴッホ、ピカソのような画家の名前を聞いたことがある人は多いでしょう。また、ピカソの独特な表現を目にして戸惑いを覚える人も一定数いると思います。ヨーロッパ近代に生み出された数々の美術作品は、約200年を通じて、その外観を大きく変化させていきました。この変化は「見た目」だけではなく、表現内容や鑑賞のあり方にも共通して見られるものです。そしてこの時期の美術は、その後の美術受容の成り立ちやアートのグローバル化にも大きな影響を与えています。この授業では、可能であればこの時代のアーティストによる表現を体験したりしながら（ちょっとした制作）、いったいなぜこのような変化が生じたのかという疑問を起点として、モダンアート理論の理解を目指します。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1回 オリエンテーション（授業の概要・アンケート） 第2回 啓蒙主義時代の美術鑑賞：「芸術」概念の成立、「美的質」の享受 第3回 「新古典主義」とナショナリズム：美術作品におけるストーリー1 「アカデミズム」の形成 第4回 「ロマン主義」とナショナリズム：美術作品におけるストーリー2 「アカデミズム」の形成 第5回 クールベの「写実主義」における作者の心情：美術作品におけるストーリー3 第6回 マネVS印象派（モネ、ピサロ、ルノワールなど）：ストーリーVSディスクリプション（記述） 第7回 「後期印象主義」（ゴッホ、ゴーギャン、セザンヌ）：心情表出（expression）VS形の探求（form） 「アカデミズム」の解体 第8回 内面の表出1 「象徴主義」（モロー、ルドンなど）・「シュールレアリスム」：想像・思考の表現 第9回 内面の表出2 「フォーヴィスム」（マティスなど）・「ドイツ表現主義」：感情の表現 第10回 形の探求1 「キュビズム」（ピカソ、ブラックなど） 第11回 形の探求2 「シュプレマティズム」・「新造形主義」（モンドリアン）・「バウハウス」（カンディンスキー、クレーなど） 第12回 形の探求3 「アンフォルメル」（デュビュッフェ）・「抽象表現主義」（ポロック、ロスコなど） 第13回 内面の表出3 デュビュッフェと「アウトサイダーアート」/「プリミティヴィズム」の問題 第14回 「ダダイズム」とアートワールド：アートのパラダイムチェンジ 第15回 拡張する「アート」の裾野：「コンテンポラリーアート」へ 第16回 試験
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	復習課題 30% 試験 70%

予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	特に復習が重要です。授業中に扱った美術作品については図書館所蔵の美術全集等で確認してください。また、授業後にteamsを通じて復習用の課題を出すことがあります。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	授業中に適宜紹介します。
参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	特にありません。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	下記のメールアドレスあるいはチャットでお願いします。面接を希望の場合は、同様にメールかチャットでその旨をお知らせください。日時調整の上、実施します。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	パワーポイントを用いた講義形式(可能であれば作品づくりをすることもあります)
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	地域の芸術・文学 - 日本美術史 -
時間割コード / Course Code	1222100229
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	地域で生み出された多様な芸術・文学に触れることを通して、豊かな表現力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	○江戸時代までの日本美術史の流れを時系列的に概観します。 ○それぞれの時代の表現上の特徴を把握します。 ○個々の作品がうみだされた文化的背景や他国との関係について学びます。 ○津軽藩とかかわりのある美術品に注目し、日本美術史全体のなかに位置づけていきます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	授業予定 第1回 飛鳥時代の仏像 第2回 白鳳時代の仏像 法隆寺の仏像など 第3回 天平時代の美術 阿修羅像、東大寺の大仏など 第4回 檀像と平安時代初期の仏像 第5回 平安時代の浄土教美術：平等院鳳凰堂の阿弥陀如来など 第6回 平安時代の絵画：仏画・絵巻物 第7回 鎌倉時代の絵画：絵巻物・垂迹画・肖像画 第8回 鎌倉時代の仏像彫刻：運慶と快慶 第9回 室町時代の水墨画：禅宗美術、雪舟、阿見派、狩野派の登場など 第10回 室町時代の屏風絵と絵巻 第11回 安土桃山時代の美術：狩野永徳と長谷川等伯、南蛮美術など 第12回 江戸時代の絵画1：狩野派の展開 第13回 江戸時代の絵画2：琳派・尾形光琳と津軽藩 第14回 江戸時代の絵画3：奇想派の画家たち（伊藤若冲、曾我蕭白、長沢蘆雪など） 第15回 江戸時代の絵画4：円山応挙・洋風画・南画（池大雅、与謝蕪村など） 授業のテーマは変更することもあります。
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	各授業で指示した課題への取り組み 30% 期末試験 70% 上記を合算して成績評価を行います。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】授業であつかう予定の時代や美術作品について、画集・インターネット等で確認しておくこと。 【復習】授業でとりあげた美術作品や時代背景、概念については、配布資料や画集で確認・整理し、理解しておくこと。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	初学者に向けての授業なので、予備知識は特に必要としません。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	Eメールアドレスを介して質問してください。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	地域の社会・文化 - オンライン演奏会実習 -
時間割コード / Course Code	1222100011
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	小田 直弥 / ODA NAOYA
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小田 直弥 / ODA NAOYA (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 2 解決していく力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	○地域の社会と文化を人間の生活の営みとの関連で考察し、その仕組みを理解すること ○上記理解に基づいて、演奏表現や作品制作の実践を理解すること
授業の概要 / Summary of the class	○音楽文化の維持発展の機会である演奏会は、近年、オンラインをフィールドとした新たな広がりを見せている ○地域の社会と文化のより良い発展を目指す戦略として今日注目されているのもオンラインである ○この授業では、県内の文化財1つに着目し、その周縁を探究することで得られた地域の社会や文化に関する理解を着想源として、オンラインでの配信を前提とした演奏会動画の作成・公開 (Youtube) を行う ○地域の文化資源のもつ歴史的コンテキストと、演奏や動画ならではの表現方法を組み合わせることで、地域におけるこれからのオンライン活用の在り方について実践のなかで検討を行う ○受講生は何かしらの演奏ができることが望ましく、西洋音楽の視点から、レッスンを行うことは可能である。一方で、企画構成・撮影・動画編集も本授業で扱うことから、それらが得意な学生においては、必ずしも演奏能力は必須ではない。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	授業内容と進行は状況に応じて適宜変更します。 第1回：イントロダクション 第2回：藤田記念庭園に関する探究活動（1）個人ワークもしくはグループワーク 第3回：藤田記念庭園に関する探究活動（2）発表と整理 第4回：オンライン演奏会動画の企画構成（1）コンセプト・プログラム検討 第5回：オンライン演奏会動画の企画構成（2）プログラム見直し・撮影すべき素材・使用機材の検討 第6回：演奏練習（1） 第7回：演奏練習（2） 第8回：演奏の中間発表ならびにフィードバック 第9回：演奏練習（3） 第10回：撮影当日の流れ（タイムライン、カメラワーク、搬入機材等）の確認 第11回：藤田記念庭園での撮影（演奏、周辺の風景、サムネイル画像、オフショット等） 第12回：動画編集（1）取得した素材の整理、プログラムに沿った動画素材の配列 第13回：動画編集（2）アニメーションや字幕等の追加、サムネ画像の加工 第14回：動画編集（3）動画のタイトル、概要欄等の検討 第15回：動画仕上げ・公開、これまでの活動から得られた気づきの共有
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	授業への参加姿勢・貢献度（100%） 授業は、受講生が主体となった学習方略（調べ学習、ディスカッション等）を予定しているため、授業の質を高めるためには互助的学習環境が求められます。そのため、一人の受講生としての授業への積極的な参加に加えて、他の受講生の学びに貢献できているかという視点も総合して評価を行います。

予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	授業時に提示した課題について、毎日40分以上の練習もしくは探究活動を行って下さい。 探究活動とは、授業内容について自分なりの視点をもてるように思考を深めたり、分からないことがあればインターネットや図書館等を活用して調べる、発展的な内容について他者とディスカッションを行うことを指します。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	随時、資料を配布します。
参考文献 / bibliography	随時、資料を配布します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	演奏能力、オンライン演奏会の企画構成・撮影・動画編集に求められる力、熱意、のいずれかもしくは複数を有していること。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	メールにてアポイントを取って下さい。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	n.oda7[A]hirosaki-u.ac.jp [A]は@のことです。
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	A09: 教育学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 / Class form, class method	演習 (メディア授業に移行した場合は、Teamsで実施します。)
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	2003年に国の登録有形文化財となった藤田記念庭園(青森県弘前市上白銀町)を取り上げる。

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - 美術史研究入門 -
時間割コード / Course Code	1222100031
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	○美術史研究の方法論を理解する。 ○社会における美術やイメージの多様な役割について考察する。 ○ペストという致死率の高い疫病と絵画メディアとのつながりを考察する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1回 導入：オルサンミケーレのタベルナーコロ_1348年、ペスト（黒死病）禍の「ミラクル・ワーキング・イメージ」（Miracle Working Image） 第2回 様式史（cf. ミラード・ミース『黒死病後のフィレンツェおよびシエナの絵画』1951年刊） 第3回 イコノグラフィ（図像学）とキリスト教美術 イエス・キリストの生涯 第4回 イコノグラフィ（図像学）とキリスト教美術 聖母マリアの生涯 第5回 イコノロジー（図像解釈学） 第6回 「アート」とは何か？ 第7回 美術の機能（芸術以前・芸術以降） 宗教と美術 仏像（興福寺の《阿修羅》） 第8回 美術の機能（芸術以前・芸術以降） 宗教と美術 イコン、祈念像、祭壇画 第9回 美術の機能（社会における美術） 政治（戦争）と美術：プロパガンダ / 抗議 / 記念碑 第10回 美術の機能（社会における美術） ジェンダーと美術：「ヌード」を巡る言説 第11回 美術の機能（社会における美術） マスメディアとイメージ：「かわいい女の子」の再生産 第12回 五感と美術 美術は視覚のみに結びつくもの？：嗅覚と美術 第13回 疫病と美術 ペストと「ミラクル・ワーキング・イメージ」 第14回 疫病と美術 ペスト終焉、その後、どうする？：ペスト後のオルサンミケーレとタベルナーコロの建造 第15回 疫病と美術 ペスト終焉はどのようになされた？：タベルナーコロの図像プログラムを読む 第16回 期末試験 授業後にコメントペーパーの提出を求めています。 講義内容は多少変更する可能性があります。
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	授業毎のコメントペーパー（50%）と期末試験（50%）を合算し評価します。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】授業であつかう予定の時代および地域の美術作品を、図書館に所蔵されている美術全集等で確認しておくこと。 【復習】授業でとりあげた美術作品や美術史研究の方法論、概念については、配布プリントおよび美術全集の写真や解説、また紹介する参考図書などで確認・理解すること。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	とくにありません。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	授業毎のコメントペーパーに記入するか、teamsのチャットまたは下記メールアドレスにお願いします。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	パワーポイントを用いた講義
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - 音楽史研究入門 -
時間割コード / Course Code	1222100220
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	作曲家ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750) の音楽活動と主要作品の概要を掴む。音楽の研究手法・研究課題の概要を見渡し、「音楽学」、「音楽史」という学問分野の成立と目的を知る。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	<p>音楽は、素晴らしいものです！といっても、その素晴らしさはいったいどこから来るのでしょうか？なぜ、私たちは音楽を聴いて感激するのでしょうか？「音楽学」は、こうした疑問に答えることを目指す学問です。音楽をもっと楽しむために、新たな音楽に出会うために、好きな音楽を広めるために、あるいは、よりうまく演奏するために、音楽学は役立ちます。</p> <p>なお、ほんらい音楽学の対象は幅広く、何もクラシック音楽に限定されるものではありません。本授業では例として、クラシック音楽の研究方法の中から、「歴史的音楽学」を紹介します。</p> <p>トピックとして、以下のものを予定しています。(受講生の関心や理解度に依じて変更することがあります。)</p> <p>第1回 1) なぜバッハ？ : (導入) 芸術と芸術学、音楽と音楽学 第2回 2) バッハって誰？ : 伝記研究(1) : バッハの生涯と創作の概要 第3回 (2) : バッハの伝記の諸相 第4回 3) バッハの曲ってどれ？ : 楽譜資料の整備と作品の年代特定 第5回 4) バッハの曲ってどんなの？ : 様式研究の方法 4-1) 鍵盤曲 : 書法の分析(1) : クラヴィア作品 第6回 (2) : オルガン作品 第7回 4-2) 管弦楽曲 : 楽曲形式の分析 第8回 4-3) 教会カンタータ : 歌詞と音楽の関係 第9回 4-4) 受難曲 : 神学的アプローチ(1) : キリスト教の福音書における受難物語 第10回 (2) : バッハによる聖書解釈としての受難曲 第11回 4-5) オラトリオ : 受難物語と降誕物語 第12回 4-6) 連作曲集 : バッハの体系的創作 第13回 5) バッハの曲ってどうやって弾くの？歌うの？ : 演奏実践 第14回 6) 「Bach は小川ではなく大海である」 : バッハと後世の作曲家たち 第15回 7) バッハはいかにして巨匠となったか？ : バッハと後世の演奏家たち</p>
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のリアクションペーパー(40%) : 予習・復習として鑑賞した経験や、講義における疑問点、意見などの質および量 ・期末レポート(60%) : 授業で提示した研究方法と、自身の音楽経験を踏まえて述べているかどうか

<p>予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review</p>	<p>・授業内で扱う楽曲を聴いておくこと。授業では一部しか試聴できないことが多いので、かならず予習・復習として全体を聴いて下さい。毎週の平均で各2時間程度が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> -3声のシンフォニア 第9番BWV 795 -トッカータとフーガ 二短調 BWV 565 -F. プソーニ編曲：トッカータとフーガ 二短調 BWV 565 -コラール われらの救い主なるイエス・キリスト Jesus Christus unser Heiland BWV 363 -《さまざまな手法による18のライプツィヒ・コラール》より われらの救い主なるイエス・キリスト BWV 665, 666 -『クラヴィーア練習曲集』第3部より われらの救い主イエス・キリスト BWV 688, 689 -半音階的幻想曲とフーガ 二短調 BWV 903 -2声のインヴェンション 第6番 ホ長調BWV 777 -《平均律クラヴィーア曲集》第1巻より第2番八短調BWV 847 -《フランス組曲》第6番 ホ長調 BWV 817 -オルガン・ソナタ第6番 ト長調 BWV 530 -《イタリア協奏曲》 BWV 971 -無伴奏チェロ組曲第1番BWV1007 -無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番BWV1004 -《音楽の捧げ物》BWV1079 -ヴィオラ・ダ・ガンバとオブリガート・チェンバロのためのソナタBWV1039 -《ブランデンブルク協奏曲》全6曲 -《管弦楽組曲》全4曲 -カンタータ第147番《心と口と行ないと生活がHerz und Mund und Tat und Leben》BWV146 -カンタータ第4番《キリストは死の縄目に繋がれたり Christ lag in Todes Banden》BWV4 -カンタータ第106番《神の時は最良の時 Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit》BWV106 -《マタイ受難曲》BWV244 -《クリスマス・オラトリオ》BWV248 -《ゴルトベルク変奏曲》BWV988 -《ゴルトベルク変奏曲の主題に基づく14のカノン》BWV 1087 <p>ほか、授業時に指示します。</p>
<p>教材・教科書 / The teaching materials, textbook</p>	<p>・必要な資料は授業中に配布します。 ・試聴音源は、大学の契約する音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用して下さい。アクセス方法（IDおよびパスワード）は初回授業時にお知らせします。</p>
<p>参考文献 / bibliography</p>	<p>弘前大学附属図書館本館所蔵： 『音楽大事典』全5巻（平凡社、1981-1983） 磯山雅他編著『教養としてのバッハ 生涯・時代・音楽を学ぶ14講』（春秋社、2012） Ch.ヴォルフ『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ：学識ある音楽家』秋元里予訳（春秋社、2004） M.ゲック『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』小林義武他訳（東京書籍、2001） 磯山雅『マタイ受難曲』（東京書籍、1994） 角倉一郎監修『バッハ事典』（音楽之友社、1993） 角倉一郎監修『バッハ叢書』全10巻と別巻2巻（白水社、1976-1997） 第1-9巻と別巻1のみ所蔵。</p> <p>教育学部音楽教育講座所蔵（閲覧の際は教員に直接申し込んで下さい）： 『ニューグローブ世界音楽大事典』全21巻と別巻2巻（講談社、1993）</p> <p>青森県立図書館所蔵： M.ベッツォルト『バッハの街』小岩信治、朝山奈津子訳（東京書籍、2005） D.シューレンバーグ『バッハの鍵盤音楽』佐藤望他訳（小学館、2001） 磯山雅他監修『バッハ事典』（東京書籍、1996）</p> <p>県内図書館に所蔵なし： 久保田慶一『バッハ』（音楽之友社、2021） 久保田慶一他編著『バッハ キーワード事典』（春秋社、2012） 『バッハ全集』（小学館、1996-1999）全15巻 CDと論文や対訳などを含む単行本のセット</p>
<p>留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background</p>	<p>・五線譜は読めなくとも構いません。 ・作品鑑賞の際には著作権違反をすることがないように注意して下さい。インターネット上の資料を使う場合には、大学が契約する音楽配信サービスや、パブリックドメインのものを利用して下さい。</p>
<p>授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents</p>	<p>Teamsチャット、電子メール等で予約の上、随時可。 後期オフィスアワー：火曜5/6時限 授業後にも対応します。</p>
<p>Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address</p>	<p>asayaman@hirosaki-u.ac.jp</p>

学問分野1 (主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2 (副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3 (副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	バッハの時代の教会音楽に関する授業の中で、キリスト教、特にルター派の思想と礼拝慣習に言及します。特定の宗教を布教する目的はありませんが、不快に感じる方は履修を控えて下さい。

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - トランスナショナリズムの音楽 -
時間割コード / Course Code	1222100030
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	諏訪 淳一郎 / SUWA JUNICHIRO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	諏訪 淳一郎 / SUWA JUNICHIRO (国際連携本部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多角的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	音楽を聴くことは、生物としてのヒトが人間という存在であることの重要な一条件である。しかし、世界の音楽文化は多様であって、その背景には複雑な事情が存在している。この授業では、多角的な知性を育みながら世界の中の一地域で暮らすことの特異性と、人間の音楽による営みの普遍性という二つの側面を有する音楽がもつ文化的な力について理解を深める。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	1. 序論「近い体験・遠い体験」 2. P0序：「語りえぬもの」のエスノグラフィー 3. 『扉をたたく人』視聴 4. 『扉をたたく人』リフレクション 5. P01：「いま ここ」の神話論理 6. P02：呼びかけと振り向き 7. アフリカン・ディアスポラ 8. アフリカン・ディアスポラ 9. P03：テリトリーを生み出す「切り分け」（前） 10. P03：テリトリーを生み出す「切り分け」（後） 11. 南アジア・西アジア・マグリブ 12. ポストコロニアリズム 13. P04：「あいだ」の感覚（前） 14. P04：「あいだ」の感覚（後） 15. P05：メラネシアのポップ 16. P06：トゥバのホーメイ P0 = 『パフォーマンスの音楽人類学』
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	質問票 60 % レポート 40 %
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	予習：教科書を読み次回の導入を理解する。 復習：質問票の振り返り。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	『パフォーマンスの音楽人類学』（勁草書房 2012年）
参考文献 / bibliography	授業中に紹介する。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	世界の音楽文化に興味をもって授業に臨んでください。

授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	水曜日 9・10 時限目 Teams
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	suwa@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1 (主学問分野) / Discipline 1	A04: 地理学, 文化人類学, 民俗学およびその関連分野
学問分野2 (副学問分野) / Discipline 2	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野3 (副学問分野) / Discipline 3	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義の後で質問票を書いてもらいます。
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	無 / Nothing
その他 / Others	なし

開講科目名 / Course	世界の芸術・芸能 - 西洋美術史入門 -
時間割コード / Course Code	1221500062
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	宮坂 朋 / MIYASAKA TOMO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローバル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	講義科目
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	宮坂 朋 / MIYASAKA TOMO (人文社会科学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	世界の芸術・芸能に関する見識を深めること (CP・DP1 見通す力) 世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること (CP・DP1 見通す力)
授業の概要 / Summary of the class	西洋美術史の大きな流れをつかむ 作品の見どころを理解する
授業の内容予定 / Contents plan of the class	1回目 導入 2回目 ギリシア美術 3回目 ローマ美術 4回目 キリスト教美術 5回目 ロマネスク美術 6回目 ゴシック美術 7回目 ルネサンス美術I (15世紀) 8回目 ルネサンス美術II (16世紀) 9回目 北方ルネサンス美術 10回目 バロック美術I 11回目 バロック美術II 12回目 ロココ美術 13回目 19世紀美術 と期末試験問題提示 14回目 現代の美術と期末試験 15回目 まとめと期末試験解題 (受講生の理解度に合わせて内容や進み方に変更もあります。また感染症対策などでメディア授業に移行する場合、Teamsを使用します。毎回の小クイズは概ねFormsを使用します。)
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	・毎回の小クイズ：50% (授業中Formsなどで出題する質問に答える形式) ・期末試験：50%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	予習 配布資料をあらかじめ読んでおく。 復習 毎回の授業で見た作品を目に焼き付けましょう。視覚的に記憶することが美術史の基礎と言えます。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	教科書はありませんが、授業で取り扱う作品は、参考文献に掲載されているものです。資料を配布します。

参考文献 /bibliography	<ul style="list-style-type: none"> ・『世界美術大全集』全29冊,小学館,1992-1997年。(図書館にあります。画像や解説を参考にしてください) ・『西洋美術館』小学館,1999年。(同上) ・高津春繁『ギリシア・ローマ神話辞典』岩波書店、1960年。(神話画像の概要を調べる際に便利です) ・『新共同約聖書』。(聖書を出典とする画像について知るために役に立ちます) ・田中英道(監修)『西洋美術への招待』東北大学出版会、2002年。
留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background	<p>○予習が必要です。</p> <p>○予備知識としては、高校の世界史程度。</p> <p>○人文社会科学部の「形態文化論」(宮坂担当)を取った人におすすめです。形態文化論では主に古代オリエント～古代ローマの作品を取り扱いますが、この授業ではその後の作品について勉強します。</p>
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	火曜日12:40～14:10 授業中、あるいは授業後メールなどでも受け付けます。
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	tomo(a)hirosaki-u.ac.jp *(a)はアットマーク
学問分野1(主学問分野) /Discipline 1	A01:思想,芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) /Discipline 2	A03:歴史学,考古学,博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) /Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 /Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 /Class form, class method	基本は対面授業で、パワーポイントを使用した講義形式で行います。ワークシート利用、質問や意見交換、発表などを交えます。小クイズは概ねFormsで行います。メディア授業に移行する場合、Teamsを利用します。
科目ナンバー /The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 /Others	欠席5回以上で不可となります。

開講科目名 / Course	世界の芸術・文学 - コンテンポラリーアート -
時間割コード / Course Code	1222110003
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	石川 達紘 / ISHIKAWA TATSUHIRO (教養教育開発実践センター /)、三木 あき子 / MIKI AKIKO (教養教育開発実践センター /)、藤井 さゆり / FUJII SAYURI (教育推進機構 /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	世界のすぐれた芸術・文学作品に触れることを通して、高い知性と豊かな感性を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	国内外のコンテンポラリーアートに関し、弘前れんが倉庫美術館の学芸を担当する各専門家が、多様なアプローチからレクチャーを行います。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1回 弘前で美術館を開くということ (現代美術・美術館について1) (10/15 石川) 第2回 弘前で美術館を開くということ (現代美術・美術館について2) (10/15 石川) 第3回 弘前で美術館を開くということ (現代美術・美術館について3) (10/15 石川) 第4回 弘前で美術館を開くということ (展覧会を開くということ) (10/15 石川) 第5回 弘前で美術館を開くということ (弘前れんが倉庫美術館について) (10/15 石川) 第6回 アートのローカルとグローバルをめぐって (現代美術のアーティストたち 1) (11/19 三木) 第7回 アートのローカルとグローバルをめぐって (現代美術のアーティストたち 2) (11/19 三木) 第8回 アートのローカルとグローバルをめぐって (現代美術のアーティストたち 3) (11/19 三木) 第9回 アートのローカルとグローバルをめぐって (現代美術のアーティストたち 4) (11/19 三木) 第10回 アートのローカルとグローバルをめぐって (現代美術のアーティストたち 5) (11/20 三木) 第11回 アートのローカルとグローバルをめぐって (リレーショナル・アート 1) (11/20 三木) 第12回 アートのローカルとグローバルをめぐって (リレーショナル・アート 2) (11/20 三木) 第13回 現代のパフォーミングアーツ1 (12/3 藤井) 第14回 現代のパフォーミングアーツ2 (12/3 藤井) 第15回 現代のパフォーミングアーツ3 (12/3 藤井) 授業内容は変更になる場合があります。
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	授業内課題 (小レポート) 80% , 期末課題 (レポート) 20%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】現代美術やコンテンポラリーアートを扱う美術館についてインターネットや本を通して情報を得ること。 【復習】授業中に紹介したアーティストや展覧会、イベントなどの事例を調べたり、確認したりすること。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	資料はteamsにデータをアップロードするほか、授業中にプリントを配布します。
参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。

留意点・予備知識 /Point to keep in mind, back ground	特にありません。
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	Teamsのチーム内のチャットでお願いします。
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	担当教員：出 佳奈子 (idek_48@hirosaki-u.ac.jp)
学問分野1(主学問分野) /Discipline 1	A01:思想,芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) /Discipline 2	該当なし
学問分野3(副学問分野) /Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 /Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 /Class form, class method	集中講義：日程については以下のとおり 10/15(土) 1コマ~5コマ(石川先生担当回) 11/19(土) 2コマ~5コマ(三木先生担当回) 授業時間は変更の可能性あり 11/20(日) 1コマ~3コマ(三木先生担当回) 授業時間は変更の可能性あり 12/3(土) 2コマ~4コマ(藤井先生担当回)
科目ナンバー /The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	有/Yes
その他 /Others	美術館をはじめとするアートに関する場所で多くの展覧会等を手がけてきた学芸員による講義です。

開講科目名 / Course	世界の芸術・芸能 - 近現代の音楽文化史 -
時間割コード / Course Code	1221510015
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	沼野 雄司 / NUMANO YUJI
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローバル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	講義科目
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	沼野 雄司 / NUMANO YUJI (教養教育開発実践センター /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応する CP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	世界の芸術・芸能に関する見識を深めること 世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること
授業の概要 / Summary of the class	20世紀以降の音楽文化について、その社会的背景を踏まえて音楽の創作と実践の歴史を学ぶ。 グローバル化する世界の中で、古今東西の音楽文化がどのように影響しあい、展開しているかを理解する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	<p>第1日 (8月6日)</p> <p>第1回 インタロダクション：日本・現代・音楽 第2回 音楽と視覚 第3回 ノイズと楽音 第4回 即興と偶然性</p> <p>第2日 (8月7日)</p> <p>第5回 音楽と政治 第6回 音楽批評をめぐって 第7回 身体性と機械 第8回 メディアをめぐる問題</p> <p>第3日 (8月9日)</p> <p>第9回 テクノロジーと音楽 第10回 映像と音楽 第11回 日本の現代音楽の行方 第12回 21世紀の音楽 (1) ポップ化</p> <p>第4日 (8月10日)</p> <p>第13回 21世紀の音楽 (2) マニエリスム 第14回 21世紀の音楽 (3) 他ジャンルとの融合 第15回 授業の総括と理解の確認</p> <p>ただし、各回の内容は履修者の関心に応じて、適宜変更されることがある。</p>
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	平常点 (リアクションペーパー、授業内への貢献度) 30%、レポート70%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	各回の授業内容について復習すること。授業内では、時間の都合上、さまざまな楽曲を部分的にしかり上げることができないので、youtube、Naxos Music Library などで重要な楽曲をフルサイズで聴いておくこと。

教材・教科書 / The teaching materials, textbook	なし
参考文献 / bibliography	沼野雄司『現代音楽史 闘争しつづける芸術のゆくえ』（中公新書） 教科書として使用するわけではないので、購入の必要はない。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	特になし。クラシック音楽、現代音楽についての予備知識は問わない。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	講義開始まで：窓口教員を通じて随時。電子メールかTeamsのチャット機能などで連絡のこと。 講義期間中：授業の前後
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	窓口教員：朝山奈津子（教育学部音楽学研究室）asayaman@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想，芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	該当なし
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	知識の多寡は全く問わないが、積極的に自分の頭で考える姿勢が望まれる。 実務教員：講師は大学での音楽学担当教員としてだけでなく、音楽学者として国際的に活動し、専門論文のほか単著を数多く出版している。また音楽批評家として各誌で健筆を振るい、現代音楽のコンサートおよび作曲コンクールのプロデュースや審査を務め、音楽制作の現場経験を持つ。

開講科目名 / Course	世界の芸術・文学 - 舞台芸術概論 -
時間割コード / Course Code	1222110002
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小塩 さとみ / OSHIO SATOMI (教養教育開発実践センター /)、館 亜里沙 / TACHI ARISA (教養教育開発実践センター /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	世界のすぐれた芸術・文学作品に触れることを通して、高い知性と豊かな感性を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	東西の舞台芸術(能、文楽、歌舞伎、バレエ、オペラ、演劇など)について、その歴史を踏まえつつ、ドラマ・音楽・美術・演出などの総合的な観点を身につける。 各舞台芸術ジャンルで古典ないしスタンダードなレパートリーと称される演目について、現代における上演の意義を考察する。

<p>授業の内容予定 / Contents plan of the class</p>	<p>授業は以下のような内容で進める。 授業の進度や履修者の関心等に応じて内容を変更する可能性がある。</p> <p>第1回 授業の主旨および関連資料の探し方（朝山奈津子）【メディア授業オンデマンド方式、11月25日までに公開】</p> <p>第1日（館亜里沙）【12月3日（土）、面接授業】 第2回 オペラのかたち（18世紀まで）：オペラの誕生から「番号オペラ」と称される古典的オペラの型が確立するまでを概観する。 モンテヴェルディ《オルフェオ》、ヘンデル《エジプトのジュリオ・チェザレ》、モーツァルト《コジ・ファン・トゥッテ》ほか 第3回 オペラのかたち（19世紀）：「番号オペラ」が崩れる過程と、19世紀の作曲家達が試みた諸ジャンルや作風を概観する ドニゼッティ《ランメルモールのルチア》、ヴェルディ《リゴレット》、プッチーニ《トスカ》ほか 第4回 バレエの芸術性：宮廷バレエおよびその後のロマンティック・バレエ/クラシック・バレエ/モダン・バレエの変遷を概観する。 リュリ《町人貴族》、アダン《ジゼル》、チャイコフスキー《白鳥の湖》、ストラヴィンスキー《春の祭典》ほか 第5回 近現代の音楽劇：イリュージョンか脱イリュージョンか、アンチ・オペラか伝統的オペラか等、20世紀のオペラ/音楽劇史に巻き起こった議論を軸に、舞台芸術の多様性に触れる。 ストラヴィンスキー《エディプス王》、サティ《バラード》、ライヒ《スリー・テイルズ》ほか</p> <p>第2日（館亜里沙）【12月4日（日）、面接授業】 第6回 オペラを「読む」 ワーグナー《ラインの黄金》（《ニーベルングの指環》序夜）に投影される社会 第7回 演出で楽しむ《ラインの黄金》（シェロー、クプファー、シュレーマー、ウォーナー、ネミロヴァほかの諸演出の比較・考察） 第8回 テクノロジーと舞台上演（私達の周辺のメディア技術の向上や新機構の登場は、少なからず舞台芸術にも影響を与えている。その諸相を概観したうえで、舞台芸術の今後の可能性を考える。）</p> <p>第3日（小塩さとみ）【2月21日（火）、面接授業】 第9回：日本の舞台芸術と音楽の歴史 第10回：能と狂言（その1）演劇空間の特徴・狂言の鑑賞 第11回：能と狂言（その2）音楽的な特徴・能の鑑賞</p> <p>第4日（小塩さとみ）【2月22日（水）、面接授業】 第12回：歌舞伎（その1）演劇空間と音楽的な特徴 第13回：歌舞伎（その2）多様な演劇様式の比較 第14回：文楽（その1）文楽の演劇的・音楽的特徴 第15回：文楽（その2）文楽の作品鑑賞＋日本の伝統芸能に関するまとめ</p>
<p>成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard</p>	<p>前半（館） ・レポート課題（最終授業時に提示）50%</p> <p>後半（小塩） ・リアクションペーパー（毎回の授業で配布）25% ・レポート課題（最終授業時に提示）25%</p>
<p>予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review</p>	<p>予習：授業への理解がより深まるよう、シラバスに記載された演目については事前にあらすじや配役を読んでおくことが望ましい。また、高校までに学習した日本史（文化史）について確認しておくこと。 復習：授業で扱ったものの中で関心をもったジャンルについて自分でさらに調べたり視聴したりする。</p>
<p>教材・教科書 / The teaching materials, textbook</p>	<p>随時プリントを配布。</p>

参考文献 / bibliography	佐和田敬司ほか編 『演劇学のキーワード』（ペリカン社、2007） ロジャー・パーカー著（大崎滋生訳）『オックスフォードオペラ史』（平凡社、1999） 県立図書館所蔵 永竹由幸 『痛快！オペラ学』（集英社インターナショナル、2001） エリカ・フィッシャー＝リヒテ（中島裕昭ほか訳）『パフォーマンスの美学』（論創社、2009） 片桐功ほか 『はじめての音楽史：古代ギリシャの音楽から日本の現代音楽まで』（2017） 長木誠司 『オペラの20世紀 夢のまた夢へ』（平凡社、2015） 県内所蔵なし、弘前大学図書館へ購入依頼中 小塩さとみ 『日本の音・日本の音楽』アリス館、2015 弘前市立図書館、県立図書館ほか所蔵 徳丸吉彦 『ものがたり日本音楽史』岩波書店、2019 山本東次郎 『中・高校生のための狂言入門』平凡社、2005 津村禮次郎 『能がわかる100のキーワード』小学館、2001 西川浩平 『歌舞伎音楽を知る：一歩入れればそこは江戸』ヤマハミュージックメディア、2009 八板賢二郎 『音で観る歌舞伎：舞台裏からのぞいた伝統芸能』新評論、2009
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	週末および期末の集中授業となるので、日程に注意すること。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	・ 講義期間中：授業の前後 ・ 講義期間外：窓口教員を通じて随時。オフィスアワー：火曜5/6時限。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	窓口教員：朝山奈津子 asayaman@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想，芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	A03: 歴史学，考古学，博物館学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	A02: 文学，言語学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義、演習
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	実務経験のある教員による授業科目：（館）現在、オペラの演出家としても複数の舞台を手がけており、舞台制作の観点から講義を行う。

開講科目名 / Course	地域の多様性と活性化 - 地域とアートワールド -
時間割コード / Course Code	1221200022
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、塚本 悦雄 / TSUKAMOTO ETSUO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 2 解決していく力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	地域が孕む様々な問題や地域が持つ様々な魅力を理解すること 地域の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
授業の概要 / Summary of the class	地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。 「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。 弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し、その改善や解決のために何ができるか、どこにどのように働きかけるべきかを考えます。 以上により、アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールする手法を学びます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	(講義) 第1回：オリエンテーション(出、朝山) 第2回：弘前の「いま・ここ」第1回(小杉在良(弘前れんが倉庫美術館運営統括)) 第3回：弘前の「いま・ここ」第2回(小杉) 第4回：青森の「いま・ここ」(奥脇高大(青森県立美術館学芸員)) 第5回：芸術家の「いま・ここ」(塚本悦雄(彫刻家、弘前大学教授)) 第6回：シンポジウム「弘前のアートワールド」(小杉、奥脇、塚本、出、朝山) 第7回：個人発表、演習班の編成(出、朝山) (演習) 第8回：問題点の洗い出し：弘前とアートの現状を捉える(小杉、塚本、出、朝山) 第9回：発表第1回の準備(小杉、塚本、出、朝山) 第10回：中間発表第1回とディスカッション(小杉、塚本、出、朝山) 第11回：問題点の構造を考える：誰が何を受けとってくれるか(小杉、塚本、出、朝山) 第12回：中間発表第2回(小杉、塚本、出、朝山) 第13回：働きかけの具体化：誰に何をどうやって届けるか(小杉、塚本、出、朝山) 第14回：最終発表の準備(小杉、塚本、出、朝山) 第15回：最終発表(小杉、塚本、出、朝山)
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	・授業内の課題への取り組み(20%)：期日どおりに提出されたかどうか、課題に対して自分の意見を持つと努めているか ・授業内のディスカッションへの取り組み(40%)：コメントの質および量 ・発表への取り組み(40%)：話し合いへの参加の積極性、情報収集の質および量
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	・弘前市・青森県の文化政策や、文化的な催事について、情報収集を積極的に行うこと。 ・演習の準備を事前に丁寧に行うこと。 ・発表後の振り返りを行い、次回の授業に生かすこと。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	授業内で適宜配付・指示。

<p>参考文献 /bibliography</p>	<p>【弘前大学附属図書館 所蔵】 佐々木健一『美学への招待』、中央公論社、2004年。(中公新書1741) 山本晋司編『資源化する文化』、弘文堂、2007年。(資源人類学2) アーサー・ダントー「アート・ワールド」、西村清和編『分析美学基本論文集』、勁草書房、2015年、9-35頁。 渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学：境界線上の音楽』、春秋社、2013年。 ハワード・ベッカー『アート・ワールド』後藤将之訳、慶應大学出版会、2016年。 熊倉純子監修、菊地拓児、長津結一郎編『アートプロジェクト(芸術と共創する社会)』、水曜社、2014年。 クレア・ビショップ『人工地獄：現代アートと観客の政治学』大森俊克訳、フィルムアート社、2016年。 藤田直哉編著『地域アート：美学/制度/日本』、堀之内出版、2016年。 弘前市教育委員会編『弘前の文化財』、弘前市教育委員会、2017年。 小林真理編『文化政策の思想』、東京大学出版会、2018年。(文化政策の現在1) 小林真理編『拡張する文化政策』、東京大学出版会、2018年。(文化政策の現在2) 小林真理編『文化政策の展望』、東京大学出版会、2018年。(文化政策の現在3)</p>
<p>留意点・予備知識 /Point to keep in mind, back ground</p>	<p>・授業開始までに、受講者の自己紹介を兼ねたアンケートを実施しますので、回答して下さい。</p>
<p>授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents</p>	<p>電子メール、Teamsを通じて随時可。</p>
<p>Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address</p>	<p>窓口教員：朝山奈津子 asayaman@hirosaki-u.ac.jp</p>
<p>学問分野1(主学問分野) /Discipline 1</p>	<p>A01: 思想, 芸術およびその関連分野</p>
<p>学問分野2(副学問分野) /Discipline 2</p>	<p>A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野</p>
<p>学問分野3(副学問分野) /Discipline 3</p>	<p>A09: 教育学およびその関連分野</p>
<p>実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience</p>	<p>実務経験</p>
<p>地域志向科目 /Local intention subject</p>	<p>地域志向科目</p>
<p>授業形態・授業方法 /Class form, class method</p>	<p>講義、演習</p>
<p>科目ナンバー /The subject number</p>	<p></p>
<p>メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes</p>	<p>無 / Nothing</p>
<p>その他 /Others</p>	<p>実務経験について：非常勤講師はアートNPO法人での活動経験が豊富で、現在は文化施設のスタッフである。また学部教員の内1名は、彫刻家である。 地域指向科目について：地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し、その改善や解決のために何が出来るか、どこにどのように働きかけるべきかを考えます。地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。</p>

開講科目名 / Course	キャリアデザイン - アート・インターンシップ -
時間割コード / Course Code	1222500039
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 キャリア教育
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択
授業形式 / Class Format	演習科目
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小杉 在良 / KOSUGI ARIYOSHI (教養教育開発実践センター /)、青山 真樹 / AOYAMA MAKI (教育推進機構 /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル3
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること 自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
授業の概要 / Summary of the class	弘前れんが倉庫美術館の展覧会に関連する美術館プログラムを企画実施します。 文化施設における教育普及活動(ミュージアム・エデュケーション)や、展覧会および関連プログラム企画、また広報の専門家によるレクチャーを交えながら学び、実践に移します。 美術館における複数の職種について、学習・経験することによって、アートに関連するキャリア形成の実際を理解します。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1~3回(10/8・土, 2~4コマ): 美術館における教育普及活動についての講義と演習(講師: 青山, 出, 朝山 @弘前大学) 第4回(10/14・金, 18:10-19:40): 「奈良美智展弘前2002-2006ドキュメント展」についてのレクチャーと展覧会見学(講師: 佐々木@弘前れんが倉庫美術館) 第5~7回(11/5・土, 2~4コマ): ワークショップ企画の理念・方法についての講義と演習, 展覧会関連ワークショップの企画立案(講師: 岡崎, 小杉, 出, 朝山@弘前大学) 第8~10回(11/26・土, 2~4コマ): 広報の理念・制作方法についての講義と演習, ワークショッププログラムのための広報制作(講師: 木村, 小杉@学内あるいは弘前れんが倉庫美術館) 第11回(11/30・水, 4コマ): ワークショッププログラムのための広報制作 フライヤー(講師: 小杉, 出, 朝山@弘前大学) 第12回(12/7・水, 4コマ): ワークショッププログラムのための広報制作 SNS(講師: 小杉, 出, 朝山@弘前大学) 第13回(1/22・日, 時間未定): ワークショッププログラムの準備(講師: 小杉, 出, 朝山@弘前れんが倉庫美術館) 第14・15回(1/29・日, 午後): ワークショッププログラムの実施(講師: 小杉, 出, 朝山@弘前れんが倉庫美術館)
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	・演習の事前準備、参加の積極性(70%) ・提出物: 美術館プログラムに関するレポート(30%)

予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】現代美術に関する情報収集を積極的に行うこと。/ 全国ないし世界の展覧会や美術館・博物館の広報材料(チラシ、ポスター、ウェブサイトなど)を閲覧・収集すること。 【復習】教育普及活動に関しては授業で扱った内容を参考資料等で再度確認すること。/ 広報活動およびプログラムの実施については講義で扱った内容を振り返るとともに、広告物制作・広報の実施・プログラム内容の確認を復習の時間を使って行うこと。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	授業時に適宜配付
参考文献 / bibliography	特になし
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	・履修者数の上限は10名とします。 ・「アートワールドひろさきキュアプログラム」対象科目。ただし、プログラムに参加していなくても履修できます。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	電子メールやLMSを通じて随時。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	窓口教員：出佳奈子 idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	A09: 教育学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義、演習、実習
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	無 / Nothing
その他 / Others	講師には、実務経験者として、弘前れんが倉庫美術館学芸員および十和田現代美術館教育普及担当者を含みます。 担当教員 非常勤講師： 青山真樹(十和田現代美術館) 岡崎大輔(京都芸術大学非常勤講師・「を、編む」主催) 小杉在良(弘前れんが倉庫美術館) ゲストスピーカー 佐々木蓉子(弘前れんが倉庫美術館) 木村正幸(デザイン工房エスパス) 大学担当教員： 出佳奈子 朝山奈津子